

「寒い冬に木々たちは」

校庭自然観察教室

奈良市立佐保川小学校

富江 文雄

昨年10月に引き続き奈良市立佐保川小学校4年生(2組)を対象とした自然教室(学習支援)が開催され、当会から桜木、山本(美)、飯島、千載、富江の5名が講師として出席した。

第一組のスタート直前に雨が降り出し、急遽教室に戻り、千載会長から当会の簡単な説明と講師の紹介の後、木々の冬芽についての話を始めたところ雨がやみ急いで校庭に出た。

今回は校庭の一部を占める‘佐保川の森’に限定しての観察会なので、主な樹木としては

- クスノキ、ハナミズキ
- クヌギ、コナラ、アラカシ
- (ドングリのできる木)

クロガネモチ、サクラ、イロハモミジを選んでそれぞれの木の冬芽を見ながら特徴を解説した。



冬期の自然観察では、殆どの木が葉を落とし、花も無いため、子どもたちにとって興味を持つ対象が少ないものであるが、小道具を用意することで対処する事が出来ると考え、桜木、山本(美)の両名に色々と準備をしてもらった。

ドングリに関して、根の出たコナラの実を集めておいて、それを実際に見せることで根がどこから出てくるかが分かり、それを配って家に持ち帰って、庭や植木鉢に移植して成長するか

どうか観察するように勧めた。

‘植物の種の散り方・運ばれ方’の解説

まずはイロハモミジの種がプロペラのように飛ぶ様子を見せたかったが、あいにく木に残っていないため、紙で作った模型で風の中で飛ぶ様子を体験させた。

さらにフタバガキの種が大きく飛ぶのを見た後で、型紙で作った模型を輪ゴムで飛ばす実験を行った。



初めは輪ゴムで飛ばすことに戸惑ったが、慣れてくるとかなり上空まで飛び、それが回転しながら落ちてくるのを見て、歓声をあげ何度も繰り返して飛ばすため、輪ゴムが切れてしまう児童が続出した。

これらのことから植物の種の散り方、運ばれ方の一環が学習出来たものと考える。

受け持ちの先生から「コロナ禍のため外で走り回る機会が少ない時に、このような学習で子どもたちに貴重な経験をさせて貰った」との評価をいただいた。

これで、秋、冬と二回の自然教室を開くことが出来、学校から春、夏も入れて年4回の開催を提案された。新年度の事業として実施時期などを検討する事になった。



令和5年(2023年)1月16日実施